P-51

1960年代に刊行された医療社会事業専門誌に関する一考察　－専門職文化の変遷－

横山豊治[1)]
1)　新潟医療福祉大学 社会福祉学科

【背景・目的】わが国の医療社会事業従事者の組織化は1950年代に始まり、全国組織としては1953年発足の日本医療社会事業家協会がそれにあたる。同協会は設立10年後に出版事業を強化し、それまで会員のみで共有してきた会報を誰でも定期購読が可能な市販の月刊誌へと大きく転換させた。しかし、出版社からの発行によるこの月刊誌の刊行は1年半で終わり、再び協会内部の発行物となり、発行頻度も年数回へと減った。以後、半世紀を経た今日に至るまで、医療ソーシャルワーカーを対象とした月刊のジャーナルは刊行されていない。

斯界において、極めて限られた時期にしか出版されなかった定期刊行物という意味で、医療社会事業史研究にとっては貴重な史料といえる全18号の月刊誌とその前後の発行物を先般、入手したので、それらの変遷の過程を概観し、専門職文化の在りようについて検討したい。

【方法】医療社会事業史に関する歴史研究であり、下記の史料を主たる調査対象とした文献研究である。
＜主な調査対象＞
編集：社団法人日本医療社会事業協会
発行：川島書店
書名：『医療と福祉』
№1（1964年10月15日発行）から№18（1966年3月15日発行）までの全18冊。（各48頁）

【結果】
1．日本医療社会事業協会と会報・会誌の変遷
1953年　日本医療社会事業家協会 設立(会員数197人)
1954年　『會報』創刊号　発行
1955年　第3号よりタイトルを『会報』と表記
1958年　会の名称を日本医療社会事業協会に変更
1963年　協会設立10周年を機に社団法人化の方針を総会決議（会員数が初めて千人を超える）
1964年　社団法人の認可を受ける
この年までに17号の『会報』を発行したが、法人化を契機に出版事業の強化を図り、同年10月に川島書店より月刊誌『医療と福祉』創刊号を刊行（会員外販価120円）
1966年　3月、月刊最後の『医療と福祉』18号刊行
11月、会員誌として『医療と福祉』再刊1号刊行（以後、1972-74年の休刊を除き、現在まで刊行。現在は年2回刊行）
2．月刊誌の出版意図と編集方針
月刊『医療と福祉』創刊号（1964）の巻末は2頁にわたる「協会ニュース」で締めくくられており、その中に法人化実現の経緯に続き、「医療における人間の回復をめざして－新雑誌の創刊－」という見出しで、この月刊誌の創刊に込められた協会のポリシーが記されている。

「今までの会報を脱皮」し、対象とする読者は協会員が基本ではあるが、「医療チーム内の医師、保健婦、看護婦、栄養士、薬剤師、レントゲン技師、O・T、P・Tまたは他の社会福祉領域の人たち、社会福祉専攻学生など、多勢の人達に広く読んでもらうために購読者を増やし、側面的に多数の力で協会をささえてゆく方法をとる」（表記は原文のまま）として、医療・福祉の関係者に医療社会事業への理解者を増やしていこうとする意図が示されている。

そして編集の根本方針として、「医療社会事業の本質的追求」「医療社会事業の必要性の認識」「事例研究」「名著の紹介」など全19項目のコンテンツを列挙している。
3．発行体制の変遷
1964年10月から1年半は毎月刊行され、内容も編集方針を反映した多彩な論文や記事で構成されていたが、誌上で予告のないまま、1966年3月の18号を最後に休刊となった。主に財政的な理由で出版社との契約を継続することができず、協会内の会員誌として、再刊という形で同年11月から発行されたが、頻度は隔月刊、季刊、年2回刊と次第に減少。1972年～74年に協会活動そのものが停滞して休刊。1974年3月に復刊して現在に至る。（協会は2011年に公益社団法人日本医療社会福祉協会となる）

【考察】保健・医療の専門職にはそれぞれの分野の実践者や研究・教育者が論文や実践報告等を投稿したり、最新の情報を得たりするための媒体として月刊の専門誌が活用されているが、医療ソーシャルワーカーには従事者数が1万人近くになっているという今日においても月刊誌がなく、医療分野に限らず「ソーシャルワーカー」という職種に拡げてみても、投稿可能な月刊のジャーナルはない。社会福祉士という国家資格化からも30年近くを過ぎ、有資格者が20万人を超えていながら、投稿可能な月刊誌が存在しないというところに斯界における専門職文化の未成熟を指摘せざるを得ない。

【結論】1年半というごく限られた期間ながら、組織的にも財政的にも現在よりはるかに脆弱な体制だったはずの半世紀前に医療社会事業分野で月刊の専門誌が存在したことは、現任者の間でも知らない者が増えつつある。自らの職能と社会的な認知度を高めようと懸命に取り組んだ先人の志と努力は評価されるべきであり、さらにそれが当時なぜ可能となったのかが解明されるべきであろう。

【謝辞】本研究は、わが国の医療ソーシャルワークの実践・教育・研究に永年、尽力された児島美都子日本福祉大学名誉教授（日本医療社会事業協会第2代会長）から2014年に寄贈された50点の文献史料のうちの一部を対象に行ったものである。貴重な文献史料を提供していただいた児島美都子先生に深く感謝申し上げます。